

2014 年 1 月作成（第 1 版）

日本標準商品分類番号
873211

医薬品インタビューフォーム

日本薬剤師会の I F 記載要領 2013 に準拠して作成

カルシウム剤

日本薬局方 乳酸カルシウム水和物
乳酸カルシウム「エビス」

CALCIUM LACTATE HYDRATE

剤形	散剤
製剤の規制区分	なし
規格・含量	1g 中 日局乳酸カルシウム水和物1g 含有。
一般名	和名：乳酸カルシウム水和物 洋名：Calcium Lactate Hydrate
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：1985年 7月29日 薬価基準収載年月日：1985年 7月 発 売 年 月 日：2014年 1月14日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日興製薬株式会社 販 売 元：ニプロ株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	ニプロ株式会社 医薬品情報室 TEL 0120-226-898 FAX 06-6375-0177 医療関係者向けホームページ http://www.nipro.co.jp/

本 I F は 2013 年 10 月作成の添付文書の記載に基づき作成した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

Ⅰ F 利用の手引きの概要 ー 日本病院薬剤師会 ー

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、目病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、Ⅰ F と略す）の位置付け並びにⅠ F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてⅠ F 記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてⅠ F 記載要領2008が策定された。

Ⅰ F 記載要領2008では、Ⅰ F を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-Ⅰ F）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-Ⅰ F が提供されることとなった。

最新版のe-Ⅰ F は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-Ⅰ F を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-Ⅰ F の情報を検討する組織を設置して、個々のⅠ F が添付文書を補完する適正使用情報として適切に審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、Ⅰ F 記載要領の一部改訂を行いⅠ F 記載要領2013として公表する運びとなった。

2. Ⅰ F とは

Ⅰ F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、目病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はⅠ F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたⅠ F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

〔Ⅰ F の様式〕

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ② I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③ 表紙の記載は統一し、表紙に続けて目病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[I F の作成]

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は目病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③ 添付文書の内容を補完するとの I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④ 製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤ 「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「I F 記載要領2013」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[I F の発行]

- ① 「I F 記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「I F 記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

3. I F の利用にあたって

「I F 記載要領2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。電子媒体の I F については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I F の利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I F が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I F の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I F を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I F は目病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I F があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	11. 力価	3
1. 開発の経緯	12. 混入する可能性のある夾雑物	4
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	4
II. 名称に関する項目	14. その他	4
1. 販売名	V. 治療に関する項目	
2. 一般名	1. 効能又は効果	5
3. 構造式又は示性式	2. 用法及び用量	5
4. 分子式及び分子量	3. 臨床成績	5
5. 化学名（命名法）	VI. 薬効薬理に関する項目	
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	6
7. CAS登録番号	2. 薬理作用	6
III. 有効成分に関する項目	VII. 薬物動態に関する項目	
1. 物理化学的性質	1. 血中濃度の推移・測定法	7
2. 有効成分の各種条件下における安定性	2. 薬物速度論的パラメータ	7
3. 有効成分の確認試験法	3. 吸収	7
4. 有効成分の定量法	4. 分布	7
IV. 製剤に関する項目	5. 代謝	8
1. 剤形	6. 排泄	8
2. 製剤の組成	7. トランスポーターに関する情報	8
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	8. 透析等による除去率	8
4. 製剤の各種条件下における安定性	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
5. 調製法及び溶解後の安定性	1. 警告内容とその理由	9
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	9
7. 溶出性	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	9
8. 生物学的試験法	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	9
9. 製剤中の有効成分の確認試験法		
10. 製剤中の有効成分の定量法		

5. 慎重投与内容とその理由	9	7. 容器の材質	13
6. 重要な基本的注意とその理由及び 処置方法	9	8. 同一成分、同効薬	13
7. 相互作用	9	9. 国際誕生年月日	13
8. 副作用	10	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	13
9. 高齢者への投与	10	11. 薬価基準収載年月日	13
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	10	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加 等の年月日及びその内容	13
11. 小児等への投与	10	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及び その内容	13
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	10	14. 再審査期間	14
13. 過量投与	10	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	14
14. 適用上の注意	10	16. 各種コード	14
15. その他の注意	11	17. 保険給付上の注意	14
16. その他	11		
IX. 非臨床試験に関する項目		X I. 文献	
1. 薬理試験	12	1. 引用文献	15
2. 毒性試験	12	2. その他の参考文献	15
X. 管理的事項に関する項目		X II. 参考資料	
1. 規制区分	13	1. 主な外国での発売状況	15
2. 有効期間又は使用期限	13	2. 海外における臨床支援情報	15
3. 貯法・保存条件	13		
4. 薬剤取扱い上の注意点	13	X III. 備考	
5. 承認条件等	13	その他の関連資料	15
6. 包装	13		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

1909年、Moncanyなどによる臨床報告が見られ、可溶性カルシウム剤として用いられた。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

該当資料なし

II. 名称に関する項目

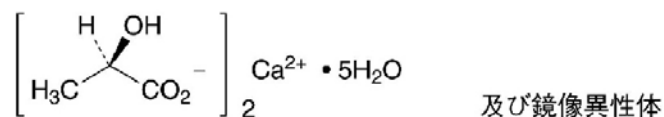
1. 販売名

- | | | |
|-----------|---|--|
| (1) 和名 | 名 | 乳酸カルシウム「エビス」 |
| (2) 洋名 | 名 | CALCIUM LACTATE HYDRATE |
| (3) 名称の由来 | | 第十四改正日本薬局方以前の収載名称である乳酸カルシウムと、承継元会社名（エビス製薬）の「エビス」による。 |

2. 一般名

- | | |
|-------------|---|
| (1) 和名（命名法） | 乳酸カルシウム水和物（JP） |
| (2) 洋名（命名法） | Calcium Lactate Hydrate（JP）
Calcium Lactate（USP）
Calcium Lactate（Anhydrous, Monohydrate, Trihydrate 及び Pentahydrate）（EP）
乳酸鈣(Rusuangai)（中） |
| (3) ステム | 不明 |

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

$\text{C}_6\text{H}_{10}\text{CaO}_6 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$: 308.29

5. 化学名（命名法）

Monocalcium bis[(2*RS*)-2-hydroxypropanoate] pentahydrate

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名：乳酸カルシウム

7. CAS登録番号

63690-56-2

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の粉末又は粒で、においはなく、味はわずかに酸味がある。

(2) 溶解性

1gは水20mLに徐々に溶け、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当しない

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

常温でやや風解し、120℃で無水物となる。

3. 有効成分の確認試験法¹⁾

日本薬局方の医薬品各条「乳酸カルシウム水和物」確認試験法による。

4. 有効成分の定量法¹⁾

日本薬局方の医薬品各条「乳酸カルシウム水和物」定量法による。

Ⅳ. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

散剤

白色の粉末又は粒で、においはなく、味はわずかに酸味がある。

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

該当しない

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、安定なpH域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

1g中 日局乳酸カルシウム水和物1g 含有。

(2) 添加物

該当しない

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

「Ⅲ. 有効成分に関する項目」の「2. 有効成分の各種条件下における安定性」参照
室温保存で3年間安定

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性

該当しない

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法¹⁾

日本薬局方の医薬品各条「乳酸カルシウム水和物」確認試験法による。

10. 製剤中の有効成分の定量法¹⁾

日本薬局方の医薬品各条「乳酸カルシウム水和物」定量法による。

11. 力価

該当しない

- 12. 混入する可能性のある夾雑物
酪酸、酢酸、プロピオン酸等
- 13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報
該当資料なし
- 14. その他
該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

- 低カルシウム血症に起因する下記症候の改善
テタニー
- 下記代謝性骨疾患におけるカルシウム補給
妊婦・産婦の骨軟化症
- 発育期におけるカルシウム補給

2. 用法及び用量

乳酸カルシウム水和物として通常成人1回1gを1日2～5回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当しない

(2) 臨床効果

該当しない

(3) 臨床薬理試験

該当しない

(4) 探索的試験

該当しない

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当しない

2) 比較試験

該当しない

3) 安全性試験

該当しない

4) 患者・病態別試験

該当しない

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当しない

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

塩化カルシウム水和物、リン酸水素カルシウム水和物、グルコン酸カルシウム水和物

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

血清カルシウム値が低下したとき、カルシウム値を上昇させる。血漿中カルシウムイオンが欠乏すると神経系及び筋肉系の興奮性がたかまって疲労しやすくなり、横紋筋は痙攣を起こす。本薬の投与により、鎮静、痙攣軽減の作用を示す。カルシウムは無機栄養素としても重要で、歯や骨の主成分である。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目」の「7. 相互作用」参照

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

経口投与において、投与量の約33%が消化管より吸収される。吸収は年齢と共に減少するが、体内でカルシウムが不足した時は上昇し、また、ビタミンDの活性代謝物1,25-dihydrocholecalciferolも吸収を増加させる。

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 随液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

尿、胆汁、腠液、汗、唾液、ふん便、母乳など種々の経路より排泄される。

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

尿中には毎日400mg前後が排泄される。

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

1. 高カルシウム血症の患者
[症状を悪化させることがある。]
2. 腎結石のある患者
[症状を悪化させることがある。]
3. 重篤な腎不全のある患者
[腎不全を悪化させることがある。]

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

- (1) 活性型ビタミンD製剤を服用している患者
[高カルシウム血症があらわれやすい。]
- (2) 強心配糖体の投与を受けている患者
[強心配糖体の作用を増強するおそれがある。]
- (3) 高カルシウム血症があらわれやすい病態の患者

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中又は尿中カルシウムを検査することが望ましい。
また、高カルシウム血症があらわれた場合には投与を中止すること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ジギタリス製剤 ジゴキシン ジギトキシン	ジギタリス中毒（不整脈、ショック）があらわれることがある。定期的にジギタリス中毒の有無、心電図検査を行い、必要に応じてジギタリス製剤の血中濃度を測定し、異常が認められた場合には、ジギタリス製剤を減量若しくは中止する。	ジギタリス製剤の作用を増強する。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 テトラサイクリン	テトラサイクリン系抗生物質の作用が減弱するおそれがある。同時服用を避け、併用する場合には、1～3時間以上あけるなど注意する。	カルシウムイオンはキレート化によりテトラサイクリン系抗生物質の吸収を阻害する。
ニューキノロン系抗菌剤 塩酸シプロフロキサシン ノルフロキサシン トスフロキサシン トシル酸塩水和物	ニューキノロン系抗菌剤の作用が減弱するおそれがある。同時服用を避け、併用する場合には、2時間以上あけるなど注意する。	カルシウムイオンはキレート化によりニューキノロン系抗菌剤の吸収を阻害し、血中濃度を低下させる。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

(3) その他の副作用

	頻度不明
長期投与	高カルシウム血症、結石症
消化器	便秘

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

該当しない

11. 小児等への投与

該当しない

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

該当しない

15. その他の注意
該当しない

16. その他
該当しない

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験（「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照）
- (2) 副次的薬理試験
該当資料なし
- (3) 安全性薬理試験
該当資料なし
- (4) その他の薬理試験
該当資料なし

2. 毒性試験

- (1) 単回投与毒性試験
該当資料なし
- (2) 反復投与毒性試験
該当資料なし
- (3) 生殖発生毒性試験
該当資料なし
- (4) その他の特殊毒性
該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分
該当しない
2. 有効期間又は使用期限
使用期限：3年（表示の使用期限を参照すること。）
3. 貯法・保存条件
貯法：室温保存
4. 薬剤取扱い上の注意点
 - (1) 薬局での取扱い上の留意点について
該当しない
 - (2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）
テトラサイクリン系抗生物質ならびにニューキノロン系抗菌剤の吸収を阻害することがあるので、同時に服用しないよう指導する。
 - (3) 調剤時の留意点について
該当資料なし
5. 承認条件等
該当しない
6. 包装
500g
7. 容器の材質
ポリエチレン
8. 同一成分、同効薬
同一成分：日本薬局方乳酸カルシウム水和物製剤
同効薬：グルコン酸カルシウム水和物 等
9. 国際誕生年月日
不明
10. 製造販売承認年月日及び承認番号
承認年月日 1985年7月29日
承認番号 16000AMZ02227000
11. 薬価基準収載年月日
1985年7月
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容
該当しない
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容
1986年12月3日（有効性）

14. 再審査期間
該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報
本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

HOT(9桁)番号	厚生省薬価基準収載 医薬品コード (YJコード)	レセプト電算コード
107266235	3211001X1016 (3211001X1032)	610441037

17. 保険給付上の注意
該当しない

X I . 文 献

1 . 引 用 文 献

- 1) 第十六改正日本薬局方解説書（廣川書店）
- 2) 日本薬局方 医薬品情報 2011年版

2 . その他の参考文献

該当資料なし

X II . 参 考 資 料

1 . 主な外国での発売状況

USP EP 中 収載

2 . 海外における臨床支援情報

該当資料なし

X III . 備 考

その他の関連資料

該当資料なし

【MEMO】

【MEMO】

【MEMO】

ニフ。ロ 株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号